

機械器具 (06)呼吸補助器
一般医療機器 酸素テント (JMDN : 12893000)
特定保守管理医療機器

酸素テント T-3C

【警告】

- ・ テント内には発火源となる危険な物を持ち込まないこと。
(例、タバコ、マッチ、ライター、呼鈴スイッチ、カイロ、電気加温器、電気メス、危険な薬品等)
[引火、爆発の恐れがあります。]
- ・ テント内には引火物及び易燃性の物を持ち込まないこと。
(例、可燃性油脂類、ベンジン、消毒用アルコール、セルロイド製品等)
[引火、爆発の恐れがあります。]
- ・ 患者の着衣、寝具類は静電気の発生予防のため化学繊維は避け、純綿製品を使用すること。
[引火、爆発の恐れがあります。]
- ・ 上記事項の確認のため、収容患者の着衣と所持品の点検を行うこと。
- ・ テント内の湿度を 50%以上に保つこと。
[乾燥した状態では引火し易くなります。]
- ・ 酸素の供給は医師の指示により行い、必ず酸素濃度計を用いて定期的に測定すること。
[酸欠、または、高濃度により患者に支障をきたす恐れがあります。]

【禁忌・禁止】

- ・ 酸素を使用中は、火焰、揮発油、照明灯、電熱器等を近づけないこと。また、同一室内では裸火を使用しないこと。
[引火、爆発の恐れがあります。]

【形状・構造及び原理等】

本器はアクリル樹脂製の本体、アルミ製のフレーム、及び、ビニールカバー（キャノピー）で構成されている。
本体には、氷室、冷却管、加湿瓶、ネブライザー挿入口が設けられており、テント内部側に温度計が取り付けられている。
フレームは、本体に接続されており、ビニールカバーの支えであるが、収納時には本体側に折りたたむことが出来る。
ビニールカバーにはホックが取り付けられており、本体に嵌めこんで固定する。

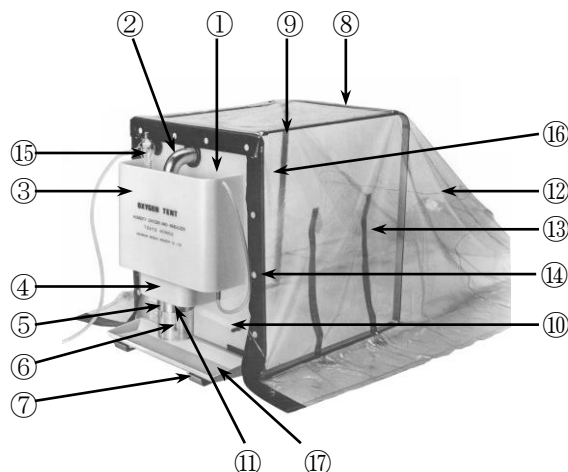
■ 寸法・重量

組み立て時＝高さ 550 X 間口 480 X 奥行 660 mm

収 納 時＝高さ 550 X 間口 480 X 奥行 160 mm

ビニールカバー＝幅 2000 X 長さ 1000 mm

約 6.5 kg



- | | |
|---------|---------------|
| ①本体 | ⑩凝縮水用樋（両面） |
| ②冷却管 | ⑪ノズル（加湿瓶取付座内） |
| ③氷室 | ⑫ビニールカバー |
| ④循環吸入部 | ⑬処置用手入れ口 |
| ⑤加湿瓶取付座 | ⑭カバー止めホック |
| ⑥加湿瓶 | ⑮ネブライザー挿入口 |
| ⑦脚 | ⑯温度計（内側） |
| ⑧フレーム横桁 | ⑰凝縮水受皿 |
| ⑨フレーム | |

■ 作動・動作原理

- ・ 本体①に冷却管②がゴムブッシュで取り付けられている。
- ・ 一端は氷室③下方の循環吸入部④上にゴムブッシュで接続され、その先端は加湿瓶取付座⑤に組み込まれたノズル⑪を覆っている。
- ・ 酸素は加湿瓶取付座の挿入口より入り、加湿瓶⑥内の水を吸い上げ、ノズルにて霧状として冷却管内に噴出される。
- ・ 冷却管は氷室に入れた氷水により冷却されており、更に本体も冷却されているためテント内の空気を冷却することができる。
- ・ 冷却管の下端の空間では、噴出に伴うベンチュリー作用により陰圧となり、循環吸入部裏側に開けられた吸入口よりテント内の空気を循環させる。
- ・ 噴出時の霧は冷却管内に当たり、粗い粒子は下に落ちて瓶内に戻り、煙霧状の物のみテント内に入るので過剰湿度にならずにテント内を加湿することができる。

取扱説明書を必ずご参照ください

【使用目的又は効果】*

■ 使用目的

- (1) 乳児、小児の酸素治療。
- (2) 湿度テント（圧搾空気により噴霧し、気道の水合作用を目的とする。
- (3) 抗生剤噴霧テント。

【使用方法等】*

■ 使用前の準備

1. フレームを左右に開き、横桁で左右を連結します。
2. ビニールカバーを手入れ用のファスナーが裏側にならないように注意してかぶせ、中央を合わせてから本体にフックにて固定します。
3. テント内を冷却する場合は、氷室に氷を荒く砕いて入れ、更に水を氷室の半分まで満たし、氷室の周囲に凝縮する水滴を受けるため、凝縮水受皿を氷室の下（脚の上）に置きます。
4. テント内の湿度を高める場合は、加湿瓶に蒸留水または殺菌水を入れ、取付座にしっかりとねじ込みます。
（加湿しない場合でも、加湿瓶は空のまましっかりとねじ込んでおくこと。）
5. 加湿瓶取付座からのホースを酸素流量計に接続します。
6. 患者は頭部または上半身をテント内に入れ、カバーの周囲に隙間ができないようにします。
7. 酸素流量計を5～6ℓ/min に設定し、5～10分間酸素を流し、その後下表を参考に希望の流量に調節します。

酸素流量 (ℓ/min)	1	2	3
酸素濃度 (%)	30～35	35～40	40～45

※ 表はあくまでも目安です。患者の大きさ、状態により一定しませんので、必ず酸素濃度計で確認すること。

■ 使用準備時の注意事項

1. 患者の着衣、寝具類は静電気の発生予防のため化学繊維は避け、純綿製品を使用すること。
2. 上記事項の確認のため、収容患者の着衣と所持品の点検を行うこと。

■ 使用中の操作

1. 処置の際はビニールカバー左右のファスナーを開け行います。酸素のロスを防ぐため、できるだけ手早く行い、処置が終了したら必ずファスナーを閉じてください。
2. 抗生剤を噴霧する場合は、抗生剤をネブライザーに入れ、挿入口のゴム栓を外して差し込み、酸素または電気式ポンプ等の噴出口に接続します。

■ 使用中の注意事項

1. テント内には発火源となる危険な物を持ち込まないこと。
（例、タバコ、マッチ、ライター、呼鈴スイッチ、カイロ、電気加温器、電気メス、危険な薬品等）

2. テント内には引火物及び易燃性の物を持ち込まないこと。
（例、可燃性油脂類、ベンジン、消毒用アルコール、セルロイド製品等）

■ 使用後の操作

1. 使用後は氷室内の水を排水してください。
2. 加湿瓶を外し、瓶内の水を排水します。
3. 本体の水滴を拭き取り、清拭後、乾燥させてから保管してください。

【使用上の注意】

重要な基本的注意

■ 禁忌・禁止

1. 加湿瓶取付座からのホースは必ず酸素流量計に直結し、他の加湿瓶等を介さないこと。
[酸素漏れの原因になります。]
2. 本器には照明灯、電熱器等を近付けないこと。
[プラスチック、ビニール等の破損の原因になります。]

■ 注意

1. 冷却する場合は、患者の状態等治療目的により注意して行うこと。
2. 加湿しない場合でも、加湿瓶は空のまましっかりとねじ込んでおくこと。 [酸素漏れの原因になります。]
3. 患者を暖めるために湯たんぽ等を用いるとビニールカバー内に水滴が付着しますので時々拭ってください。
4. 患者に対する処置は必ずファスナーを開いて行い、必要以上の開放またはビニールカバーごとの開放はしないこと。
[折角高めた酸素濃度を失います。]
5. ファスナーの開閉は上下のつまみを持ち静かに行うこと。
[ファスナーまたは周囲部の破損の原因になります。]
6. ビニールカバーの取り外しはフックを持ち静かに行うこと。 [ビニールカバー破損の原因になります。]
7. ビニールカバーを折りたたむ場合は、ファスナー部分を折らないようにすること。
[ファスナーの開閉不良または破損の原因になります。]

【保管方法及び有効期間等】

- 保管環境条件
- ・ 周囲温度 : -10℃～40℃
 - ・ 相対湿度 : 85%（最大）
- 耐用年数 5年

【保守・点検に係る事項】

使用者による保守点検事項

- ・ 使用後は排水、清拭して保管すること。
- ・ 本器の消毒は逆性石鹼液が最適です。
アルコール、シンナー、ホルマリン、クレゾール石鹼液、石炭酸液等は使用しないこと。
- ・ EOGによる滅菌の場合は、残留ガスに注意すること。

***【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：アイデアル・メディカル株式会社